令和６年度　伊那市立長谷小学校評価表

学校関係者評価；（A：十分達成された　B：ほぼ達成された　C：不十分であった）　自己（項目間相対を加味した到達度）評価（a：十分達成された　b：ほぼ達成された　c：不十分であった）

学校教育目標	重点目標（中長期的目標）
輝け長谷っ子 ともに学び ともに育つ	目指す子ども像 ふるさと長谷を愛し、 自分で考え、 自分から取り組む長谷の子ども
	今年度の重点目標
	(1)輝く長谷っ子（自己肯定感･自己有用感を育む子ども） ◇自分の居場所がある安心感　◇心をつなぐあいさつ ◇思いやりを育む異学年交流 ◇様々な立場を認め合う教育活動 (2)ともに学ぶ　（自ら考え、取り組み、かかわる子ども） ◇主体的･対話的に深く学ぶ　◇探究的に学ぶ ◇自立して学ぶ (3)ともに育つ　（ふるさと長谷に誇りと愛着をもつ子ども） ◇地域を知り、地域に学ぶ　◇豊かな心の育成 ◇人間関係力の育成　◇心身の健康維持

総合評価

○「自分で考え、自分から取り組む」ことが、児童・保護者の評価がともに上がった。今年度も昨年度までと同様に、児童・保護者の評価はともに全項目の中で一番低いが、ポイントが上がるだけでなく、保護者の記述からも具体的な姿から実感できている。
○子どもたちが地域へ出たり地域の方が学校に来ていただいたりすることがコロナ前ぐらいになり、学校も地域もこれまで以上に元気が戻った。参観日や運動会・小中合同音楽会・よもぎ採り等の行事には、昨年度より多くの方に来ていただいた。
○２回目となった小中合同音楽会や合同読み聞かせ会、合同引き渡し訓練などの行事を児童生徒・職員がつくり上げたり、小中の職員が、９年間で目指す長谷の子ども像を共有しながら、授業づくりをはじめ様々な場面でともに語り合ったりし、小中連携がさらに進んだ。

成果と課題	評価	改善策・向上策
(1)なかよし学年･全校縦割りグループ等の異学年交流を年間を通して行ったことにより、下の学年を思いやる心、上の学年を敬う心が育まれた。	A a	○日常的に子どもの様子を観察し、いじめ・不登校・虐待は、早期発見・早期対応に努める。 ○異学年との交流機会を大切に考え、思いやりの心を育む。
(2)授業改善に励んだ結果、児童の自己評価が上がった。先生や友だちに頼りすぎ、一人で動き出せない姿も見られるが、児童と担任の信頼関係が良いため、児童が中心となり主体的･対話的に学ぶ姿が多く見られる。	B b	○個々の子どもに寄り添い、日常的に授業改善に努める。 ○ICT 機器を有効に活用し、子どもたちに合った学習方法・学習形態を考える。職員の ICT 研修も定期的に行う。
(3)地域の「人」「もの」「こと」を学ぶことができた。中尾の棚田祭りや Wakka Agri さんの有機米作りなど、直接話を聞いたり祭りに参加したりお米をいただいたりして、良さを実感できた。	A b	○地域の「人」「もの」「こと」を積極的に学び、地域を愛し、地域から愛される子どもを育てる。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策
教育活動	教育課程	①学校目標達成に向けての教育課程の展開	○学校教育目標「輝け長谷っ子ともに学び　ともに育つ」、目指す子ども像「ふるさと長谷を愛し、自分で考え、自分から取り組む長谷の子ども」を意識した教育課程が展開できていたか。	○２ヶ月に一度、全校で行った「月目標振り返り、月目標決め集会」で、児童会スローガン「えがお」を達成のためにみんなで考えてきた結果、自分で考え、自分で行動する姿が増えた。喧嘩や廊下歩行などの課題は継続している。	B b	○「月目標振り返り、月目標決め集会」で自分の意見を発言できる児童がさらに増えた。学校生活の良さや課題を日常的に実感したり意識したりできる子が増えているので、今後も継続していく。
		②特色ある教育活動の展開	○地域・学校・学級・児童の特性を生かした教育活動ができていたか。(孝行猿学習、長谷っ子クラブ、米作り、御山や親水公園での活動　等)	○コロナ禍前と同じような活動が戻り、地域の方々に教わったり触れ合ったりして、地域の人・もの・ことから学ぶことができた。	A a	○今後も積極的に地域へ出かけて地域から学び、地域の良さを実感し、ふるさとを愛する心を育てていく。
	学習指導	③「主体的・対話的で深い学び」を意識した協働的な学びの実践	○友と関わり合い、意見交換をして共に学びを深め合う場面を設定するなど、授業の工夫ができていたか。 ○「わかった・できた・深まった」等、児童が達成感を感じる授業ができたか。	○年度当初より、「ねらい」「めりはり」「見とどけ」を意識した授業づくりに心がけた。三学期には、昨年度同様、中学校の先生とＴＴでの授業を行い、専門性に触れながら授業改善を図った。	B b	○子どもたちの興味関心を探りながら、他教科との関わりも視野に入れながら児童の意識に沿った授業を展開していきたい。また、iPad をさらに活用し、授業の内容や形態にも活用していきたい。
		④個に応じた学びの実践	○児童の育ちを把握し、次の指導に生かす評価ができたか。 ○個に応じた学び方を工夫していたか。 ○児童一人ひとりの考えを大切にして豊かな心を育もうと取り組めたか。	○児童一人ひとりに寄り添った指導をしたり、安心して発言できる授業づくりに心掛けたりした結果、発言が意欲的になったり、友だちの間違いから学ぶ姿も多くなった。	B b	○授業づくり・授業改善と併せ、自分の考えを発言しやすい教室の雰囲気を年度当初から心掛ける。また、日頃から児童の実態把握に努め、児童一人ひとりが活躍できる場面を探る。
	生徒指導	⑤児童理解に基づいた個々の児童への指導	○児童の気持ちを大切にできていたか。 ○児童理解にかかわる職員間の連織・対応はできていたか。 ・「全職員で全校児童を見る」ことが基本。	○児童の気持ちに寄り添い大切にしようと心掛けた。学年会等の冒頭で児童理解を丁寧に行い、職員間で情報共有を行った。連学年体育、委員会、長谷っ子クラブ、縦割り活動等、複数の職員で見る。	B b	○職員間での児童理解・情報共有を引き続き大切に行う。解決が容易でない事案は勿論のこと、一人で抱え込まずチームで解決に当たることや理解することを日常化する。
		⑥児童の実態に基づいた適応指導	○いじめ防止や不登校に関わり、改善に向けた個別の指導につなげているか。 ・児童との対話やアンケート等の情報収集を行っているか。	○いじめや不登校に関わる事案は常にアンテナを高くして情報収集に心掛けた。児童や保護者の気持ち・立場に寄り添い、複数の職員で対応したり不定期にケース会議を行ったりした。	B b	○配慮を要する児童は全職員で注意深く見守り、必要に応じてケース会議を開いたり SSW や SC との懇談や子ども相談員の助言をいただいたりしながら早期に対応を進めていく。
学校運営	安全	⑦安全の確保	○事故や感染防止を重視し、安全指導がきめ細かになされ、安全の確保ができたか。	○登下校のトラブルがあれば、担任・校長・教頭で指導に当たった。昨年度よりもトラブルは減っているが、まだ時々ある。インフル・エンザ・コロナの流行は特になかった。	A a	○安全点検だけでなく、日頃から危険箇所がないか、・雷・雪・風等の気象状況にもアンテナを高くして対応していく。保護者に知らせた方がよいことは、早めにメールで知らせる。
	地域との連携	⑧地域の素材・人材の活用と協力連携の構築	○地域の素材を生かしたり、保護者・地域の人々に参画してもらう授業や活動を行ったりして、地域とのつながりや協働の姿勢を大切にした取組ができたか。	○よもぎ採りで地域の高齢者クラブの方、長谷っ子クラブの講師の方、読み聞かせボランティアの方々との交流だけでなく、地域の高齢者福祉施設、保育園児、公民館の講座で未満児親子等、幅広く交流することができた。	A a	○令和７年度は、長谷小学校開校 50 周年なので、記念運動会、記念式典、記念講演会等、お世話になっている地域の方々とともに祝ったり、楽しんだりできるように、広報やチラシでの呼びかけも行い、多くの方にご来校いただきたい。
		⑨教育活動実践の地域への発信	○ホームページや学校新聞、学級通信等により、学校の様子を地域や家庭に積極的に発信することができたか。	○ＨＰは月に１回程度更新した。学校新聞(学校だより)は毎月、子どもたちの活躍を写真を多く取り入れて発行した。	A a	○ＨＰや学校新聞で、子どもたちの活躍を中心に紹介していく。写真を多く文字を少なくし、子どもにも高齢者にも分かりやすくする。
	研修	⑩校内研究･研修の工夫･改善	○自己を高める意識を持ち、研修ができていたか。 ・小中連携職員の相互授業参観・公開授業、ICT(オンライン授業)研修　等	○長谷中学校職員と合同で小中９年間を見通した目指す子ども像について話し合ったり、小中職員がチームを作って授業づくりを行い、ＴＴで授業をしたり、小中学生が一緒に授業をしたり、これまでにない授業づくりや小中連携が進んだ。	A a	○長谷小の児童に小学校の職員だけでなく、中学校の生徒や職員がかかわることにより、児童が憧れや感動を多く感じることができる。数年後の自分を思い描くこともでき、身近なお手本から多く学ぶ機会を今後も確保していきたい。